

2015年度

8-9月号

(通巻 159号)

市立

いちかわ

# 自然博物館だより

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！

いきもの  
写真館



自然博物館収蔵写真

卵のうを抱えたアシダカグモ  
家の中に住むクモです。その大きさに  
驚きますが、夜行性なので出会うこと  
はまれです。ゴキブリを餌にします。

P 1 ☀️ いきもの写真館  
アシダカグモ

P 2 ☀️ 同じ場所を何度か訪れる  
大 柏 川  
3 7月29日

P 4 ☀️ 花屋の花を観察する  
アリウム

P 5 ☀️ 街かど自然探訪  
稲荷木・ヒヌマイトトンボのいま

☀️ くすのきのあるバス通りから  
セキセイインコの水に…

P 6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題  
立体餌場

P 7 ☀️ わたしの観察ノート  
5月～6月の記録

P 8 ☀️ 行事案内



同じ場所を何度か訪れる

# 大 柏 川

7月29日

## 【緑のなかを流れる上流部】

4・5月号で紹介した保健医療福祉センター（リハビリパーク）付近の大柏川は、川のまわりに建物が少なく、整備された遊歩道をのんびりと散策することができます。前回歩いた3月24日は、春が始まり土手がみずみずしい緑におおわれていました。

今回は真夏の7月29日に訪れました。土手は何度か草刈りされたようで草丈は低く、川の水面がよく見えました。ぐるりと見渡

してみると、空は広く、遠くには市営霊園の斜面林が見えました。

市川市の北部地域では、台地を谷が刻み、そこに川が流れています。台地の斜面は林になっている場所が多く、それが一段低い川沿いから見えるのです。この景観は、平坦な低地を流れる中・下流部では見られません。真間川から大柏川へと川をさかのぼっていくと、斜面林が見えることで上流部に来たことが実感できます。



大柏川上流部のようす  
遠方に見える林が、市営霊園の斜面林

## 【草花や生き物】

遊歩道を歩くと、川のなだらかな土手が  
つる草にびっしりとおおわれていました。  
アレチウリでした。河川敷のような環境に  
多い植物で、日当たりのいい土手が生育に  
適しているようでした。ヤブガラシという  
つる草もありました。小さな花にはいろい  
ろな昆虫が集まります。やはりつる性のヒ  
ルガオは、ピンクの花を咲かせていました。

土手の草むらからはヒメギスの鳴き声  
が聞こえ、リハビリパークに植えられた木  
ではアブラゼミが鳴いていました。遊歩道  
では、前進する足元からショウリョウバッ  
タがつぎつぎに飛び出しました。セイバン  
モロコシやオオイヌタデなどの大型の野  
草も花を咲かせていました。

水面に目を向けると、水はやや濁って  
いましたがよく流れていました。水中には  
大きなカメが何匹もいました。今回確認  
できた種類はすべてミシシippアカミミ  
ガメでした。このカメは子ガメ時代「ミ  
ドリガメ」と呼ばれ、ペットとしてごく  
一般的なものです。ただ寿命が長いこと  
もあって逃がされることが多く、野外  
でも繁殖するため、都市部の水辺では  
増えています。大柏川を歩くと必ず姿  
を見かけました。

春は川の土手で日光浴をしていたミ  
シシippアカミミガメですが、今回は  
水中に入り、オオカナダモという水草  
の茂みの中に何匹もいました。暑さを  
避けているようでした。水質汚濁が改  
善されせつかく生えた水草ですが、大  
食漢のカメが居ついては、水生昆虫  
などはひとたまりもありません。水  
中の小さな生き物の暮らしの場とな  
るはずの水草は、カメの食事場にな  
ってしまったようです。



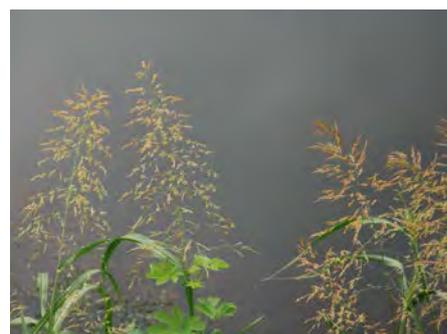
アレチウリ



ヤブガラシ



ヒルガオ



セイバンモロコシ



ミシシippアカミミガメ

## 花屋の花を観察する

# アリウム



アリウムは、細長い茎の先端にまん丸の球が乗った姿で人目を引きます。特に菜園で何本も咲いていると、びっくりします。

アリウムという名前は、広くネギの仲間を指します。野菜のネギやタマネギ、ニラ、ラッキョウ、ニンニクなどもアリウムの仲間です。巨大な球状の花を咲かせるのは、ギガンチウムという種類にあたります。

アリウムの仲間の花は、どれも小さな花が集まってひとつの形を作ります。ギガンチウムも、小さな花が球状に集まっています。

小さな花が集まって、ひとつの大きな花のように見える植物は多くあります。アジサイもそうですし、タンポポもそうです。大きな花ひとつにくらべ、実を数多く作れる利点があります。



小さな花がきれいな曲面をつくっている



雄しべが長く突き出している



花ひとつでも、整った形をしている



小さな花が集まっているガクアジサイ



# 街かど自然探訪

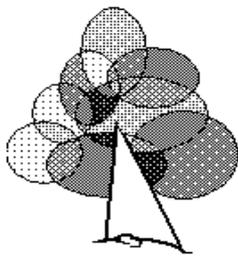
おじゃまします!

とうかぎ 稲荷木・ヒヌマイトトンボのいま

稲荷木地区の江戸川には、ヒヌマイトトンボという小さなイトトンボが生息しています。生息地が限られていることから絶滅危惧種に指定され、市川市の天然記念物にもなっています。かつては行徳橋そばの小さなヨシ原だけが生息地でしたが、河川整備の関係でヨシ原の造成や幼虫の増殖が行われ、いまでは行徳橋から京葉道路に至る範囲にヨシ原が拡大しました。その全域に生息しているわけではありませんが、多くの人が保全の取り組みを続けています。



△ヒヌマイトトンボが生息する江戸川  
白線で囲んだ範囲にヨシ原があり、その一部にヒヌマイトトンボが生息する



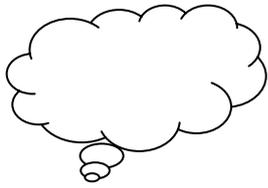
くすのきのあるバス通りから No.101

## セキセイインコの水に・・・

6月26日市営霊園横を通ると、ニイニイゼミが鳴いていました。午後には雨になり、28日午後から寒くなり、19℃にまで下がりました。30日に家の中でヤモリを見つけました。台風の影響などで天気が悪かったかと思うと、33℃以上の日が続き、7月19日に梅雨明けしました。猛暑日も連日で21日にアブラゼミが、27日にミンミンゼミが家の付近で鳴いていました。大柏川沿いや大町付近ではもっと早くから鳴いているようで、数も多いで

す。旅行から帰り、ペットたちの世話をしました。セキセイインコの水に蚊が浮いていたので、きれいにしようと取り出すと、「え、ミジンコがわいたかな？」とよく見ると、なんと小さなボウフラでした。卵からかえったばかりらしく1ミリ以下でした。白い器だったので気が付きましたが、本当に小さく、「家の中の観葉植物の水受け皿が蚊の発生源」というのがあり得ると納得するとともに、ショックでした。

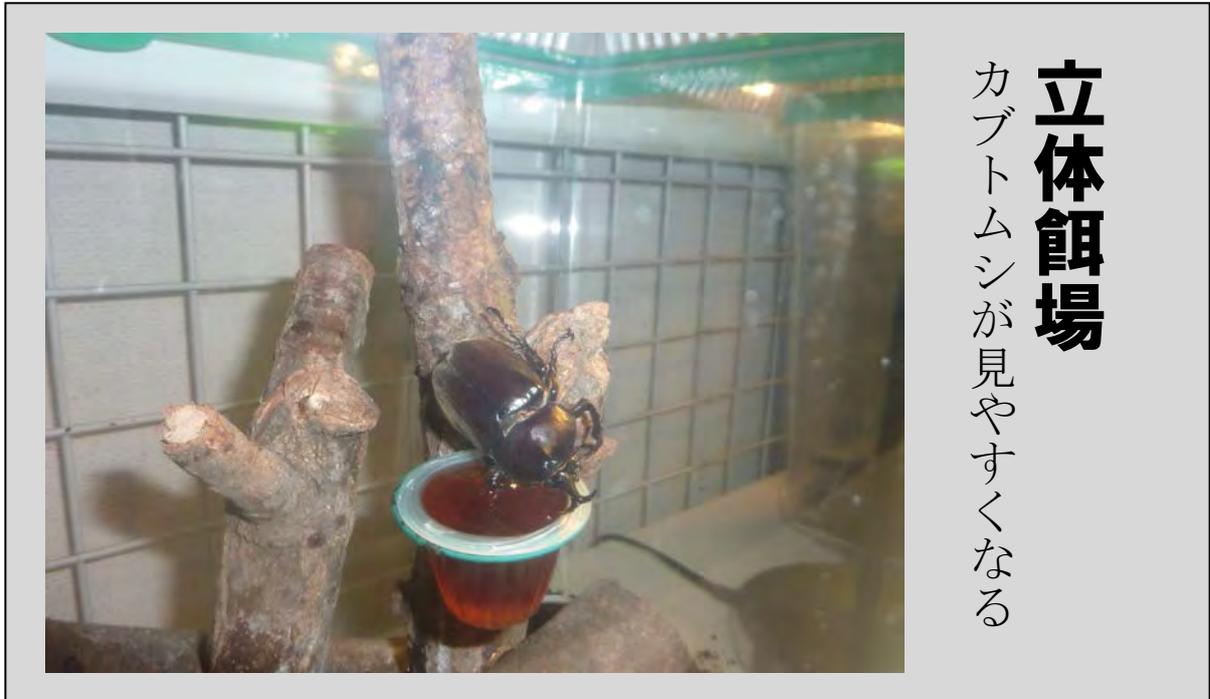
(M. M.)



# 展示室

No.03

## 飼育生物の話題



**立体餌場**  
カブトムシが見やすくなる

展示室での生き物の飼育は、家庭での飼育の延長というコンセプトで取り組んでいます。特別な装置や費用をかけることなく、ホームセンターやペットショップで購入できるものを使うようにしています。もちろん「飼うこと」で終わりではなく「見せること」までが業務ですから、ひと工夫、ふた工夫するようにはしています。たとえば飼育ケースは、フタが透明な製品を選択しました。見せるためには良い選択でしたが、透明のフタには生き物の出し入れ用の小ブタがありません。水槽清掃の時に、小さなアマガエルなどはよく逃げ出してしまいます。

立体餌場は、物陰に隠れてしまうカブトムシやクワガタムシを見やすくする工夫です。ケースの底に朽木と昆虫ゼリーを「じか置き」すると、カブトやクワガタはその陰に隠れてしまいます。そこで、朽木を立体的に組み立て、上の方に昆虫ゼリーのカップ受けを取り付けました。そうすると、開館時間中、照明を当てても餌を食べる様子が見られるようになりました。ノコギリクワガタは警戒心が強いのですが、カブトムシやギラファノコギリクワガタ(市民の方から提供してもらいました)は日中でもよく見えます。工作上手な事務職員の作品は、お客さまにも好評です。

# わたしの 観察ノート

## ◆長田谷津より

- ・ハンノキ林の下で、ミドリシジミが草に止まっていた(5/31)。残念ながら翅を閉じていました。月が替わるとミドリシジミの活動が活発になると思います。
- ・クヌギの樹液に、早くもカブトムシが来ていました(6/14)。例年よりも2週間以上早い印象です。
- ・木立に囲まれた通称・三角池の水面をオオヤマトンボが旋回していました(6/25)。長田谷津には時々飛来します。

## ◆国分川調節池より

- ・新しい造成地にはもともとあったであろうヨシやオギ、ウキヤガラなどと、あっという間に入り込んだいろいろな帰化植物が混じって生えていました(5/30)。人の背よりも大きくなるオオブタクサの幼苗もいっぱいありました。
- 以上 金子謙一(自然博物館)

## ◆北国分より

- ・自宅で、朝7時30分ごろ「カッコーカッコー」の鳴き声が聞こえてきました(5/17)。窓の外を見てみましたが、何も見えませんでした。が「カッコーカッコー」とくり返し聞くことができました。
- ・しばらく見なかったオカトラノオが咲いていました(6/12)。今年はいくぶん早いように感じました。

## ◆国府台緑地より

- ・サイハイランが咲き始めました(5/9)。もう1カ所の方は、見当たりませんでした。

## ◆じゅん菜池公園より

- ・キンランが咲いていました(5/6)。
- 以上 谷口浩之さん(北国分在住)

## ◆堀之内より

- ・エゴノキの花が散り始めた考古博物館裏の小さな雑木林で良く響く声でオオルリがさえずっていました(5/14)。
- 須藤治(考古博物館)

## ◆市川より

- ・昨年秋の卵から、スズムシの幼虫が次々とふ化し始めました(6/3)。成長して美しい鳴き声を聞かせてくれるのを楽しみにしています。

M. T. さん

## ◆江戸川放水路より

- ・干潟の水際には、いつものようにマハゼの子がいっぱいいました(5/11)。近づくにあわてて深い方へ泳いで行きました。
- ・湾岸道路の下には砂がたまった場所があります。そこに、海辺でよく見られるツルナが生えていました(5/20)。学生の頃、みそ汁に入れて食べたことを思い出しました。
- ・橋の下の暗がりでは、チゴガニの白いハサミが目立ちます(6/13)。元気に上げ下げする様子は見ていて楽しいものでした。

金子謙一

晴れて暑い、雨の少ない5月から一転して、6月8日に梅雨入りしてからは梅雨空が続きました。



# 行事案内



## おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

おやこで楽しむ自然観察です。

- ・場所 自然博物館(市川市大町)周辺
- ・時間 午前中 1時間半～2時間
- ・定員 各回とも、先着20名、親子対象です。

テーマ	日にち	受付開始日
昆虫と水辺のいきもの	9月13日⑩	8月15日より
どんぐり拾い	10月11日⑩	9月19日より

### お申し込み方法

受け付け開始日以降に  
往復はがきに参加者全員の  
住所、氏名、年齢、電話番号、  
返信面に返信の宛先を明記の上、  
下記までお申込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地  
自然博物館「〇月観察会」係まで

## 季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合
初秋の江戸川土手	9月20日⑩午前10時～11時30分	里見公園正門 午前10時
秋の雑木林	11月15日⑩午前10時～11時30分	歴史博物館前 博物館駐車場 午前10時

## 長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 9月5日⑩、10月3日⑩、11月7日⑩、  
午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

## 長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。

(雨天中止)

- ・日時 9月27日⑩、10月25日⑩、11月29日⑩、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けの  
お手伝いをしていただきませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 9月6日⑩、10月4日⑩、11月8日⑩、  
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

第27巻 第3号 (通巻第159号)

平成27年8月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館  
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>